

# 海産アユ種苗回帰率向上総合検討調査\*

抄 録

武田 保幸

## 目 的

アユは内水面漁業において重要な魚種であり、その資源を維持・培養するには再生産に結びつく海産アユ種苗の回帰率向上を図ることが必要となってきた。そこで、その手法を検討するため、日高川ならびにその周辺海域においてアユの生息実態等について調査を行った。

当事業の内容については既に「海産アユ回帰率向上総合検討調査委託事業報告書」として印刷・公表されており、また、その内の和歌山県内水面漁業センター担当分については同センター事業年度報告書に詳述されているので、ここでは当該担当分の結果概要について述べる。

## 方 法

調査は(1)アユの沿岸域での生息実態および環境、(2)シラス対象漁業によるアユの混獲、について行った。(1)については、漁業調査船「わかやま」の運航により、月例の海洋観測とリンクさせて1994年10月～1994年12月に月1回、日高川河口域の6定点で稚魚ネットによってアユ仔魚の採集を行った。また、(2)については1994年10月～1995年2月の間に、紀伊水道域の7漁協(北から西脇、箕島町、栖原、美浜町、御坊市、南部町、田辺)における船曳網および地曳網の漁獲物について調査した。シラスのサンプルは、水揚1日分につき約100gを採集・固定した後、魚種別の混獲率と全長・体重(湿重量)を測定した。

## 結 果

アユ仔魚は10月下旬から12月下旬まで断続的に入網し、12月下旬に比較的多く採集された。仔魚の全長範囲は4～17mmで、5～7mmのものが最も多かった。河口に近い定点での採集個体数が飛び抜けて多く、浮遊生活期の仔魚は日高川河口近くの表層に生息し、沖側にはあまり分布していないことが明らかとなった。

シラスを対象とする漁業によるアユ仔魚の混獲は、前年度調査では全域でみられたが、本年度は西脇、美浜町、御坊市、南部町のみであった。また、前年度に比べ日高川河口域の御坊市北塩屋(地曳網)での混獲率は低かった。地曳網で混獲された仔魚の全長範囲は19～38mmで、ネット採集のものとは重複していないことから、表層での浮遊生活期を終えた個体が、地曳網にすぐ混獲されている可能性が考えられる。

\* 海産アユ回帰率向上総合検討調査事業費による。